

2020.12.6 待降節第二主日

福音による解放者イエス

マルコによる福音 1:1-8

神の子イエス・キリストの福音の初め。

預言者イザヤの書にこう書いてある。

「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、
あなたの道を準備させよう。

荒れ野で叫ぶ者の声とする。

『主の道を整え、

その道筋をまっすぐにせよ。』」

そのとおり、洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

説教

ある人と雑談していたら一週間に一回のサイクルはちょうどいいタイミングだな、とキリスト教の礼拝間隔をほめていました。だいたい一週間もすると垢がたまってしまうから、ここを洗ってきれいになると良いとその人はいいます。なるほどなと思いました。

週一回とは別にキリスト教には一年間のサイクルもあります。それはクリスマスが始まりとする一年でアドベントから始まります。今日、わたしたちはその第二週を迎えたことになり、マルコ福音書の一章一節から8節までを朗読しました。

イザヤの預言書に書いてあるように、イエスが登場する前に「主の道を整える」洗礼者ヨハネがあらわれます。ヨハネの呼びかけでユダヤの人々はヨルダン川で洗礼を受けます。主の受け入れるためにはいまの自分を清めることが必要だ、それには洗礼が一番なのだとヨハネの考えに同調した人たちが大勢いた、ということでしょう。そしてヨハネは「わたしよりも優れた方が、後から来られる」と予告しました。マルコ福音書の1章9節以下にその予告通りにイエスが来てヨルダン川で洗礼を受けるという次第が記録されています。

わたしたちは週に一回、日曜日に集まって礼拝をしていますが、さて、礼拝ではなにが行われていて、大切にしていることはいったいなんなんだろうと、ふと思いました。きょうのマルコ福音書によればイエスさまは「聖霊で洗礼をお授けになる」とあります。水の洗礼ではなくて、聖霊の洗礼とはいったいなにを意味しているのでしょうか。わたしのかんがえはこうです。

礼拝はほんとうのところは目に見えないイエスさまが取り仕切っていて、パンとワインをいただくことが「聖霊の洗礼」のかたちになっっています。わたしたちは「聖霊の洗礼」=パンとワインをいただくために礼拝に集まっているのです。

このかんがえはあまりに聖霊がお手軽になってしまうので、いろいろお叱りを受けそうですが、週一回の礼拝が世界でおこなわれ、いまでも続いている大きな理由になっているのではないのでしょうか。だからこそ、わたしたちは「お手軽聖霊」とそしられないように中味をしっかりさせなければなりません。そして、イエスさまが教えてくれた世界の実現に向けて歩みを進めていきましょう。アドベントを過ごす一人ひとりに主の豊かなめぐみがありますように。
